

# 四半期報告書

(第75期第1四半期)

自 平成20年6月1日

至 平成20年8月31日

株式  
會社 **オオバ**

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

### 第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	5
3 財政状態及び経営成績の分析	5

### 第3 設備の状況

### 第4 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	10
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	10
(5) 大株主の状況	10
(6) 議決権の状況	11

#### 2 株価の推移

#### 3 役員の状況

### 第5 経理の状況

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	14
(2) 四半期連結損益計算書	16
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	17

#### 2 その他

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年10月14日
【四半期会計期間】	第75期第1四半期（自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日）
【会社名】	株式会社オオバ
【英訳名】	OHBA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 大場 明 憲
【本店の所在の場所】	東京都目黒区青葉台4丁目4番12-101号
【電話番号】	代表 03(3460)0111
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 渡 邊 丈 士
【最寄りの連絡場所】	東京都目黒区青葉台4丁目4番12-101号
【電話番号】	代表 03(3460)0111
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 渡 邊 丈 士
【縦覧に供する場所】	株式会社オオバ東京支店 （東京都目黒区青葉台4丁目4番12-101号） 株式会社オオバ名古屋支店 （愛知県名古屋市中村区名駅南1丁目21番19号） 株式会社オオバ大阪支店 （大阪府大阪市中央区淡路町1丁目7番3号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第74期
会計期間	自平成20年 6月1日 至平成20年 8月31日	自平成19年 6月1日 至平成20年 5月31日
売上高(千円)	648,639	13,324,342
経常利益又は経常損失(△)(千円)	△482,009	576,033
四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失(△)(千円)	△330,209	136,077
純資産額(千円)	4,138,367	4,706,902
総資産額(千円)	11,640,915	11,135,392
1株当たり純資産額(円)	247.1	266.16
1株当たり四半期(当期)純利益又は 1株当たり四半期(当期)純損失(△)(円)	△19.68	7.68
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	—	7.67
自己資本比率(%)	35.5	42.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	△1,651,846	1,158,439
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	△277,218	△398,630
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,118,519	△701,586
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	746,829	1,557,374
従業員数(人)	520	524

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第75期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成20年8月31日現在

従業員数（人）	520
---------	-----

（注） 従業員数は、理事を含めた就業人員数であります。

### (2) 提出会社の状況

平成20年8月31日現在

従業員数（人）	479
---------	-----

（注） 従業員数は、理事を含めた就業人員数であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、調査測量・情報業務、環境業務、まちづくり業務、設計業務及び事業ソリューション業務を営む単一の企業であるため、セグメント情報は記載しておりません。

#### (1) 生産高実績

建設コンサルタント業務	金額（千円）
調査測量・情報業務	627,280
環境業務	217,181
まちづくり業務	767,474
設計業務	563,192
事業ソリューション業務	37,021
合計	2,212,148

- (注) 1 価格の基準は販売価格であります。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注高実績

建設コンサルタント業務	金額（千円）
調査測量・情報業務	726,764
環境業務	318,753
まちづくり業務	882,847
設計業務	689,853
事業ソリューション業務	57,159
合計	2,675,376

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 前期以前に受注した業務で、契約額の増減があるものについては、変更の行われた期の受注高にその増減額を含んでおります。

(3) 完成高実績

建設コンサルタント業務	金額（千円）
調査測量・情報業務	241,974
環境業務	109,263
まちづくり業務	170,514
設計業務	118,803
事業ソリューション業務	8,085
合計	648,639

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 完成高合計の10%以上となる相手先はありません。

3 当社グループの売上高（事業ソリューション業務売上高を除く）は、第4四半期連結会計期間に完成する業務の割合が大きいため、第1、第2、第3四半期連結会計期間までの各四半期連結会計期間の完成高に比べ第4四半期連結会計期間の完成高が増加する傾向にあり業績に季節的変動があります。

(4) 受注残高

建設コンサルタント業務	金額（千円）
調査測量・情報業務	1,787,788
環境業務	1,150,498
まちづくり業務	3,172,319
設計業務	2,089,108
事業ソリューション業務	49,074
合計	8,248,787

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

## 3 【財政状態及び経営成績の分析】

財政状態及び経営成績の分析は四半期連結財務諸表に基づき行っており、将来に関する事項は当四半期報告書提出日現在における判断であります。

なお、当社グループの売上高（事業ソリューション業務売上高を除く）は、第4四半期連結会計期間に完成する業務の割合が大きいため、第1、第2、第3四半期連結会計期間までの各四半期連結会計期間の完成高に比べ第4四半期連結会計期間の完成高が増加する傾向にあり業績に季節的変動があります。

### （1）経営成績の分析

当社グループを取り巻く経営環境は、依然として国及び地方公共団体の公共投資予算の縮減が継続していることに加え、市場規模縮小に起因する業者間の価格競争が続いております。

このような状況のもと当社グループでは国及び地方公共団体からの受注に軸足を置きつつ、民間部門からの受注獲得に努めております。

その結果、当第1四半期連結会計期間の受注高は2,675百万円（前年同期は3,493百万円）に留まっておりません。

売上高につきましては、648百万円（前年同期は539百万円）と良好であります。営業損益は480百万円の損失（前年同期は486百万円の損失）、経常損益は482百万円の損失（前年同期は458百万円の損失）となりました。

四半期純損益は、投資有価証券評価損70百万円等の特別損失がありましたため330百万円の損失（前年同期は468百万円の損失）となりました。

### （2）財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は11,640百万円であり前連結会計年度末に比較して505百万円の増加となりました。その主な要因は流動資産の367百万円増加であり、建設コンサルタント業務に係るたな卸資産（未成業務支出金）1,222百万円の増加等であります。

負債合計は7,502百万円であり前連結会計年度末に比較して1,074百万円の増加となりました。その主な要因は短期借入金1,422百万円の増加であります。

純資産合計は4,138百万円であり前連結会計年度末に比較して568百万円の減少となりました。その主な要因は四半期純損失330百万円の計上等により利益剰余金が418百万円減少したこと及び自己株式の買入による減少116百万円であります。

### （3）キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは1,651百万円の支出であり、税金等調整前四半期純損失548百万円とたな卸資産の増加による支出1,214百万円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは277百万円の支出であり、有形固定資産の取得による支出105百万円、投資有価証券の取得・売却による差引支出186百万円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,118百万円の収入であり、短期借入金の純増額1,350百万円、自己株式の取得による支出116百万円等によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比較して810百万円の減少し746百万円となりました。

### （4）事業上及び財政上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において事業上及び財政上の対処すべき課題に重要な変更又は新たに生じた課題はありません。

### （5）研究開発活動

当第1四半期連結会計期間における研究開発費の総額は、34百万円となっております。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	59,246,000
計	59,246,000

##### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数（株） （平成20年8月31日）	提出日現在発行数（株） （平成20年10月14日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,739,041	18,739,041	東京証券取引所 市場第二部	—
計	18,739,041	18,739,041	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成20年10月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の内容は、次のとおりであります。

##### ① 平成15年6月27日定時株主総会決議による第1回分

	第1四半期会計期間末現在 （平成20年8月31日）
新株予約権の数（個）	100（注）1
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	100,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり83（注）2
新株予約権の行使期間	自 平成17年7月1日 至 平成21年6月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格83 資本組入額42
新株予約権の行使の条件	（注）3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社の取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株であります。

(注) 2 当社が時価を下回る価額で新株を発行または自己株式の処分をする場合（新株予約権の行使による場合を除く）、次の算式により1株当たりの払込金額（以下「行使価額」という）を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

前記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に、「新規発行前株価」を「処分前株価」にそれぞれ読み替えるものとする。

また、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数を切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割または併合の比率}}$$

- (注) 3 ①新株予約権の割当を受けた当社および当社子会社の取締役および監査役は退任後、新株予約権の割当を受けた当社および当社子会社の従業員は定年による退職後および会社都合による退職後も権利行使することができる。ただし、自己都合による辞任または退職、解任または懲戒解雇もしくは諭旨解雇による場合、新株予約権を行使することができない。
- ②新株予約権の割当を受けた者が死亡した場合、相続人が権利行使することができる。
- ③割り当てられた新株予約権個数の全部または一部につき行使することができる。ただし、一部を行使する場合には、割り当てられた新株予約権個数の整数倍の単位で行使することができる。
- その他の条件は、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結した「新株予約権割当契約書」で定めるところによる。

② 平成16年6月29日定時株主総会決議による第2回分

	第1四半期会計期間末現在 (平成20年8月31日)
新株予約権の数(個)	260(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	260,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり173(注)2
新株予約権の行使期間	自 平成18年7月1日 至 平成22年6月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格173 資本組入額87
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社の取締役会の承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注)1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株であります。

(注)2 当社が時価を下回る価額で新株を発行または自己株式の処分をする場合(新株予約権の行使による場合を除く)、次の算式により1株当たりの払込金額(以下「行使価額」という)を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

前記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に、「新規発行前株価」を「処分前株価」にそれぞれ読み替えるものとする。

また、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数を切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割または併合の比率}}$$

(注)3 ①新株予約権の割当を受けた当社の取締役は退任後、新株予約権の割当を受けた当社の従業員は定年による退職後および会社都合による退職後も権利行使できる。ただし、自己都合による辞任または退職、解任または懲戒解雇もしくは諭旨解雇による場合は、新株予約権を行使することができない。

②新株予約権の割当を受けた者が死亡した場合、相続人が権利行使することができる。

③割り当てられた新株予約権個数の全部または一部につき行使することができる。ただし、一部を行使する場合には、割り当てられた新株予約権個数の整数倍の単位で行使することができる。

その他の条件は、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結した「新株予約権割当契約書」で定めるところによる。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成20年8月31日	—	18,739,041	—	2,131,733	—	532,933

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付等がなく、当第1四半期会計期間において大株主の異動は把握しておりません。

#### (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成20年5月31日現在の株主名簿により記載しております。

##### ① 【発行済株式】

平成20年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,065,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,573,000	17,573	—
単元未満株式	普通株式 101,041	—	—
発行済株式総数	18,739,041	—	—
総株主の議決権	—	17,573	—

(注) 「単元未満株式」には当社所有の自己株式62株が含まれております。

##### ② 【自己株式等】

平成20年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社オオバ	東京都目黒区青葉台4丁目4番12-101号	1,065,000	—	1,065,000	5.68
計	—	1,065,000	—	1,065,000	5.68

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は2,002,883株、その発行済株式総数に対する所有割合は10.68%であります。

## 2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年6月	7月	8月
最高(円)	135	124	120
最低(円)	118	110	102

(注) 東京証券取引所市場第二部における市場相場を記載しております。

### 3 【役員 の 状 況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までの役員の変動は、次のとおりであります。

#### (1) 役職の変動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
専務取締役 (代表取締役)	企画本部長	専務取締役 (代表取締役)	—	白井芳樹	平成20年10月1日
取締役 執行役員	企画副本部長・総務 担当・中国事業担 当・子会社管掌・人 事部長・経理部長	取締役 執行役員	総務担当・中国事業 担当・子会社管掌・ 企画管理部長	渡邊丈士	平成20年10月1日
取締役 執行役員	企画副本部長・事業 ソリューション担 当・計画部長・財務 部長	取締役 執行役員	事業ソリューション 担当・財務部長	辻本 茂	平成20年10月1日

## 第5【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結累計期間（平成20年6月1日から平成20年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	746,829	1,557,374
受取手形及び売掛金	1,311,215	1,694,259
未成業務支出金	2,827,670	1,605,510
販売用不動産	504,666	520,590
不動産業務支出金	1,788,115	1,780,321
その他	458,345	144,613
貸倒引当金	△37,045	△70,810
流動資産合計	7,599,797	7,231,857
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,138,408	2,064,465
減価償却累計額	△1,206,396	△1,197,501
建物及び構築物（純額）	932,012	866,964
機械装置及び運搬具	543,730	544,630
減価償却累計額	△495,422	△493,792
機械装置及び運搬具（純額）	48,308	50,838
土地	1,215,633	1,194,267
その他	368,190	369,605
減価償却累計額	△259,769	△246,610
その他（純額）	108,420	122,994
有形固定資産合計	2,304,374	2,235,064
無形固定資産		
ソフトウェア	66,631	73,573
その他	15,521	15,521
無形固定資産合計	82,153	89,094
投資その他の資産		
投資有価証券	1,155,687	1,073,861
その他	949,227	929,600
貸倒引当金	△471,956	△447,194
投資その他の資産合計	1,632,957	1,556,268
固定資産合計	4,019,485	3,880,426
繰延資産		
社債発行費	21,631	23,107
繰延資産合計	21,631	23,107
資産合計	11,640,915	11,135,392

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年8月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	257,768	488,174
短期借入金	2,514,707	1,092,134
1年内償還予定の社債	360,000	360,000
未払法人税等	5,702	42,212
未成業務受入金	1,214,361	892,776
役員賞与引当金	—	9,750
受注損失引当金	4,995	—
その他	421,646	686,152
流動負債合計	4,779,181	3,571,199
固定負債		
社債	910,000	970,000
長期借入金	1,278,645	1,353,123
退職給付引当金	273,198	268,043
その他	261,522	266,122
固定負債合計	2,723,365	2,857,289
負債合計	7,502,547	6,428,489
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,131,733	2,131,733
資本剰余金	1,127,542	1,127,542
利益剰余金	1,306,998	1,725,577
自己株式	△323,618	△207,344
株主資本合計	4,242,655	4,777,509
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△107,136	△73,434
評価・換算差額等合計	△107,136	△73,434
少数株主持分	2,848	2,827
純資産合計	4,138,367	4,706,902
負債純資産合計	11,640,915	11,135,392

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)
売上高	648,639
売上原価	532,215
売上総利益	116,423
販売費及び一般管理費	*1 596,562
営業損失(△)	△480,139
営業外収益	
受取利息	2,118
受取配当金	1,855
受取品貸料	7,491
その他	10,451
営業外収益合計	21,917
営業外費用	
支払利息	20,396
その他	3,390
営業外費用合計	23,787
経常損失(△)	△482,009
特別利益	
貸倒引当金戻入額	7,400
特別利益合計	7,400
特別損失	
固定資産除却損	3,552
投資有価証券評価損	70,225
特別損失合計	73,777
税金等調整前四半期純損失(△)	△548,386
法人税等	△218,197
少数株主利益	20
四半期純損失(△)	△330,209

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純損失(△)	△548,386
減価償却費	39,955
繰延資産償却額	1,475
固定資産除却損	3,552
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,750
受注損失引当金の増減額(△は減少)	4,995
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,546
退職給付引当金の増減額(△は減少)	5,154
受取利息及び受取配当金	△3,974
支払利息	20,396
投資有価証券売却損益(△は益)	△360
投資有価証券評価損益(△は益)	70,225
売上債権の増減額(△は増加)	374,568
未成業務受入金の増減額(△は減少)	△66,152
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,214,870
仕入債務の増減額(△は減少)	△230,406
その他	△55,307
小計	△1,603,338
利息及び配当金の受取額	8,761
利息の支払額	△18,745
法人税等の支払額	△38,524
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,651,846
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△105,238
無形固定資産の取得による支出	△811
投資有価証券の取得による支出	△260,891
投資有価証券の売却による収入	74,669
貸付金の回収による収入	9,068
その他	5,985
投資活動によるキャッシュ・フロー	△277,218
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,350,000
社債の償還による支出	△60,000
長期借入れによる収入	300,000
長期借入金の返済による支出	△301,905
自己株式の取得による支出	△116,152
配当金の支払額	△53,422
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,118,519
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△810,545
現金及び現金同等物の期首残高	1,557,374
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 746,829

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	受注契約に係る損失見込額について、従来は業務未払金処理しておりましたが、引当金として計上する会計処理が広く一般に採用されるようになったことから、連結貸借対照表上、明瞭に表示するため、当第1四半期連結会計期間より受注損失引当金として流動負債の部に計上する方法に変更しております。 この変更による損益に与える影響はありません。

【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)
1. 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
2. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	前連結会計年度において算定した貸倒実績率を使用しております。
3. 棚卸資産の評価方法	当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
4. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)	
※1	販売費及び一般管理費の主なもの 給料手当                      290,304千円 貸倒引当金繰入額            1,898千円
2	売上高の季節的変動 当社グループの売上高(事業ソリューション業務売上高を除く)は、第4四半期連結会計期間に完成する業務の割合が大きいため、第1、第2、第3四半期連結会計期間までの各四半期連結会計期間の売上高に比べ第4四半期連結会計期間の売上高が増加する傾向にあり業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年6月1日 至 平成20年8月31日)	
※1	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
	現金及び預金                      746,829千円
	現金及び現金同等物              746,829千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成20年8月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成20年6月1日至平成20年8月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 18,739,041株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 2,002,883株

3. 配当に関する事項

配当金支払額

平成20年8月28日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

(イ) 普通株式1株当たり配当額	5円
(ロ) 配当金の総額	88,369千円
(ハ) 基準日	平成20年5月31日
(ニ) 効力発生日	平成20年8月29日
(ホ) 配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年6月1日至平成20年8月31日)

当社グループは、調査測量・情報業務、環境業務、まちづくり業務、設計業務、事業ソリューション業務を営む単一事業の企業集団であるため記載しておりません。

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年6月1日至平成20年8月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間(自平成20年6月1日至平成20年8月31日)

当該売上高は、連結売上高の10%未満であるため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成20年8月31日)	前連結会計年度末 (平成20年5月31日)
1株当たり純資産額 247.10円	1株当たり純資産額 266.16円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

当第1四半期連結累計期間 (自平成20年6月1日 至平成20年8月31日)	
1株当たり四半期純損失金額 19.68円	
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年6月1日 至平成20年8月31日)
1株当たり四半期純損失金額	
四半期純損失(千円)	330,209
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る四半期純損失(千円)	330,209
期中平均株式数(千株)	16,778

(重要な後発事象)

当第1四半期連結会計期間  
(自 平成20年6月1日  
至 平成20年8月31日)

当社は平成20年9月19日開催の取締役会において、固定資産の譲渡を決議し、固定資産の譲渡を以下のとおり平成20年10月3日に実施いたしました。

(1) 譲渡資産の内容

- ①所在地 仙台市泉区大沢1丁目5番7
- ②帳簿価額 143,989千円
- ③譲渡価額 111,996千円

(2) 譲渡先の概要

- ①商号 オリックス・アルファ株式会社
- ②本店所在地 東京都港区芝3丁目22番8号

(3) 譲渡の日

平成20年10月3日

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年10月9日

株式会社オオバ

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 金野栄太郎 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中里直記 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オオバの平成20年6月1日から平成21年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間（平成20年6月1日から平成20年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オオバ及び連結子会社の平成20年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、当社（四半期報告書提出会社）が、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。